

寒川町立一之宮小学校

研究テーマ：「他者と考えを伝え合い、認め合いながら学ぶ児童の育成」

～考え、対話する道徳の実践～

1 実践の目的

(1) テーマ設定の背景

本校の児童には、友だち（他者）の意見をよく聞くことができる。しかし、聞いたことを自分に取り入れたり、認めたりすることに課題が見られる。また、自分の考えをもち、それを相手に伝えることにも難しさがあり、他者と違うことへの不安から、自己肯定感の低さも見られた。

このような背景から、道徳の授業を通してまずは自分の考えをもつこと、そして対話を通して交流することで、互いの思いを認め合う姿を目指すことになった。

2 実践の内容

(1) 研究授業

全学年、1月までに1回ずつ研究授業を行った。授業では、心のものさしやチャート図を使って自分の考えや友達の考えを可視化し、自分の意見と友達の意見の共通点や相違点を見つけ、疑問に思ったことは質問し合うことで、対話につなげていけるようにした。また、発達段階に応じた重点課題を設定し、課題に沿った授業計画を立てた。

(2) 研究協議

今年度もグループに分かれて模造紙に付箋（成果・課題）を貼り、グルーピングする形で行った。グループごとに児童や教師についてどのような話し合いがなされたのか発表し、その中で、児童が他者と考えを伝え合い、認め合いながら学ぶためには、短縮教

材を用いて考える時間を増やすことや、心のものさしやチャート図を活用して多様な立場から話ができるようにすることが効果的であるということが分かった。

(3) 北川先生による講演会

校内研究の総括、今後の道徳の授業の展開のしかたについて、北川達夫先生による講演会を行った。はじめに、考える道徳、対話する道徳を実践するために、これまでやってきたこと（短縮教材や心のものさし、YWTによる振り返りなど）の成果について確認した。

その上で、今後の課題として、「望ましい行動をとるための思考的活動はできているが、そこからどのように具体的行動に結びつけるのか」についてお話いただいた。具体的には、「行動指標による実践方法」について挙げられた。行動指標とは、社会的に望ましい思考と行動を言語化し、実践するというものである。また、発問内容について条件を拡張して問いかける事でもう一度自分の中にある行動指標について深く考えることができることご教授頂いた。

3 実践の成果と課題

(1) 教師の変容

短縮教材や心のものさし、YWT法による振り返りなどを取り入れ、子ども同士の対話の時間を確保するなど、研究テーマに向けた道徳の授業づくりを学校全体で行うことができた。

特に、対話については「自分との対話」や「他者との対話」を取り入れた授業を行うことで、自分の考えをもち、その考えを他者に伝え、他者の考えを傾聴するといった授業形式を確立することができた。

(2) 子どもの変容

道徳の授業を通して、自己との対話だけでなく、他者(友だち)との対話もできるようになってきた。他者との対話では、「どうしてそう思ったの?」などの質問をし合うことで、より深く相手の考えを知ることができるようになった。相手の考えを知ること、自分との違いを知り、その違いを認めることもできるようになってきた。

(3) 課題

単元によっては、短縮教材や心のものさしの活用が難しいものもあった。道徳の授業において、毎回同じように取り入れるのではなく、引き続き教材研究を大切にしていこう。

対話について、全体での話し合いの限界を感じた。意見を伝えたいというところから討論のようになってしまうので、グループや個人で見直す時間を取った方がよかったように思う。

全体を通して、一般化しすぎるときれいごとになってしまう等、授業で出てきた意見や考えを一般化していく所に課題が残った。

4 今後の展開

(1) 今後の研究の生かし方

学習に関するアンケートでは、学習したことを見直し、次の学習につなげることができていると答える子どもが多かった。これは、YWT法によるふり返りを学習に取り入れたからではないかと考える。今日やったこと、分かったこと、次にやること、とい

う項目に従ってふり返りを行うことは、子どもたちにとって分かりやすかったのではないかと考える。このことから、対話やYWT法によるふり返りなど、校内研究で取り組んだことについては、道徳だけでなく他教科にもさらに広げて日々の諸活動で積極的に行っていきたい。道徳以外での継続的な取り組みが、子どもたちの学力向上にも効果的であると考えている。

対話において、基本的な流れは確立したものの、子どもたちも授業の中で慣れてくると、「対話が形式的なもの」になることもあった。今後は、ただ対話をするのではなく、そこに深まりをもたせることも大切だと感じている。

(2) 残された課題への対応

引き続き、道徳を軸に他教科でも対話型の授業を展開できるよう進めていく。意見の伝え合いや、友達の意見を引用して自分の考えを見つめ直すことはできるようになってきたので、ここからさらに、対話の幅を広げたり、対話を通して自分の意見を深めたりすることができるように研究を継続していきたいと考えている。

